

高浜4号機冷却水漏れ

ナット締め付け不十分

日程申請 26日にも再稼働

関西電力高浜原発4号機（高浜町）で放射性物質を含む一次冷却水が漏れた問題で、関電は二十二日、配管の弁に取り付けたナットの締め付けが不十分だったことが原因と発表した。

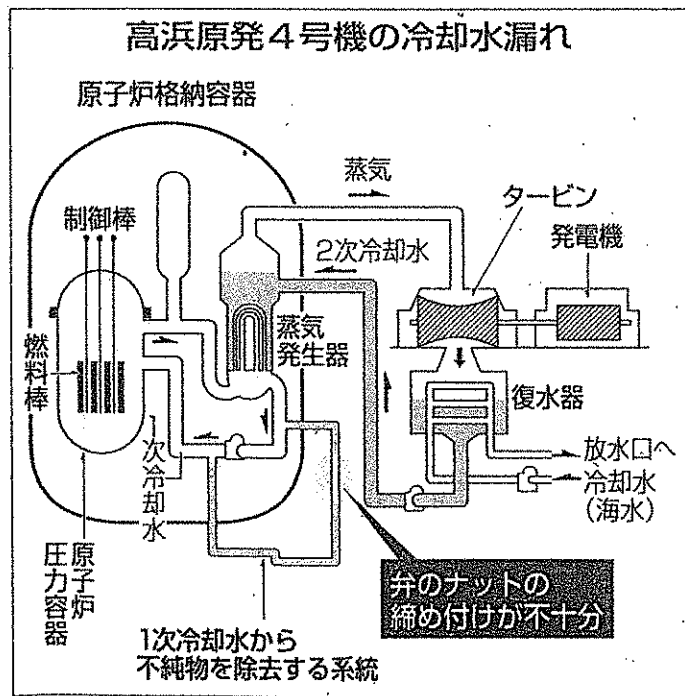
（塚田真裕）

関電は同日中にナットの締め付けなどの対策を取り、一日延期していた原子炉の温度や圧力を上げる試験を始めた。同日夜、原子力規制庁に対し、早ければ二十六日にも再稼働させる日程を申請した。

二十日に漏えいがあったのは、原子炉の熱を取り除く一次冷却水の一部を抽出し、浄化したり、核分裂を抑えるホウ素濃度を調整したりする系統。関電が二日、配管に圧力をかけて調べると、浄化装置近くの弁から漏れていたことが判明。レンチで締め直すと、四つのナットのうち一つが緩んでいた。

現地確認をした県原子力安全対策課によると、弁は二〇〇八年八月から〇九年一月の定期検査で分解点検をしていた。今回、再稼働に備えて配管に通水して、一時的に圧力が上昇したことで、緩んだ隙間から冷却水が漏れたという。

関電は全箇所を確認し、県は関電に全箇所を確認を求めた。



同課の伊藤登参事は報道陣に「常々、安全第一で作業を進めるよう伝えている。確実に（再稼働への）ステップをこなしてもらったことが大切だ」と語った。

漏えいしたのは計三十四基。放射エネルギーは国の報告基準の六十分の一で、同県や関電は環境への影響は少ないとしている。